

三軒屋遺跡発掘調査概要・II

——農用地総合整備事業「下村地区」に伴う発掘調査——

1999.2

大阪府教育委員会

はしがき

三軒屋遺跡は、大阪府の南部泉佐野市の上之郷から長滝にかけて櫻井川の東岸に展開する縄文時代から中世に至る集落跡であります。

特に、弥生時代は泉南地域屈指の拠点的集落として古くから発掘調査が実施されてきました。

今回の発掘調査は、農用地整備公団による農用地総合整備事業下村団地造成に伴い実施しました。調査の結果、弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の堅穴住居跡等数多くの新たな知見を得ることができました。

本書が地域の歴史研究の資料となり、文化財の大切さをご理解いただく一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査に際し、深いご理解とご協力を賜りました関係各機関及び地元の皆様に記して感謝します。

平成11年2月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 鹿野一美

例　　言

1. 本書は、泉佐野市上之郷に所在する農用地総合整備事業「下村地区」に伴う三軒屋遺跡発掘調査概要である。
2. 本調査は、農用地整備公団西部支社の委託を受けて大阪府教育委員会事務局文化財保護課が実施した。
3. 本調査は、平成10年5月25日から平成11年2月26日まで実施した。
4. 本調査は、文化財保護課調査第1係技師橋本高明を担当者として実施した。
5. 本書に使用した座標は、国土座標第VI座標系に基づく、標高値は東京湾標準潮位値(T.P.)である。北は、座標北を指す。
6. 本書の執筆、編集は橋本が行った。

目 次

はしがき

例 言

目 次

I. 調査に至る経過.....	1
II. 調査の成果.....	1
1. 調査の方法.....	1
2. A トレンチの調査.....	3
3. B トレンチの調査.....	3
4. C トレンチの調査.....	16
5. D トレンチの調査.....	17
6. E トレンチの調査.....	18
III. まとめ.....	27
報告書抄録.....	28

挿図目次

第1図 三軒屋遺跡地区割表示図	第18図 出土遺物図 6
第2図 調査地位置図	第19図 C トレンチ平面図
第3図 竪穴住居跡平面・断面図	第20図 D レンチ平面図
第4図 出土遺物図 1	第21図 D トレンチ断面図 1
第5図 A トレンチ平面図	第22図 D トレンチ断面図 2
第6図 A トレンチ断面図 1	図版目次
第7図 A トレンチ断面図 2	図版 1 A トレンチ
第8図 A トレンチ断面図 3	図版 2 A トレンチ断面
第9図 B トレンチ平面図	図版 3 B トレンチ
第10図 出土遺物図 2	図版 4 B トレンチ竪穴住居
第11図 方形周溝墓平面図	図版 5 C トレンチ方形周溝墓
第12図 溝 1 断面図	図版 6 D・E トレンチ
第13図 溝 2 断面図	図版 7 出土遺物
第14図 溝 3 断面図	図版 8 出土遺物
第15図 出土遺物図 3	図版 9 出土遺物
第16図 出土遺物図 4	図版 10 出土遺物
第17図 出土遺物図 5	

I. 調査に至る経過

三軒屋遺跡は、泉佐野市の西南部「長滻」地区、「上之郷」地区に所在し、樺井川右岸の標高28~22mの田園地域に位置する。遺跡は、縄文時代から近世まで連継と続く複合遺跡で、特に弥生時代は岬町の番川流域の淡輪遺跡、泉南市の男里川流域の男里遺跡と並んで樺井川流域の拠点的集落として著名である。今までの調査においても集落域、墓域（方形周溝墓群）、水田などが確認されており、遺跡の様相も徐々にではあるが明らかになってきている。

今回の三軒屋遺跡の調査は農用地整備公団の施工する農用地開発事業下村地区に伴うものである。調査は、平成8年度に事業地内の確認調査を泉佐野市教育委員会が実施したことに始まり、平成9年度に本府教育委員会が水路部分約300m実施し、今年度の調査もって終了した。

調査は、農地開発事業による掘削深度が遺物包含層もしくは遺構面に到達する水路等の部分に限って実施した。

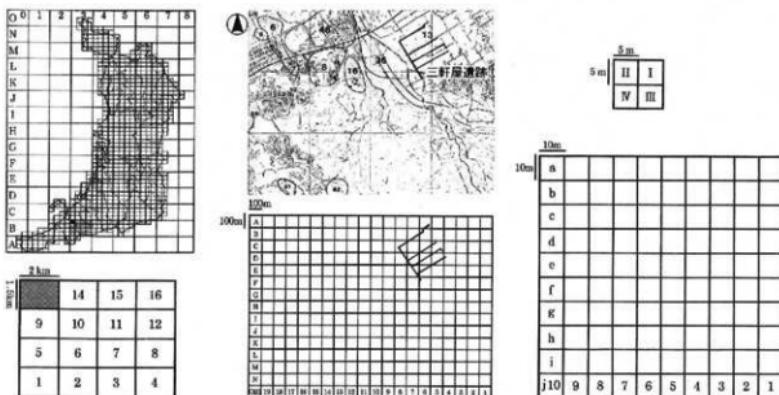
II. 調査の成果

1. 調査の方法

調査は、水路設置予定部分について樺井川に直行する方向にトレント4箇所、樺井川に平行する方向にトレントを1箇所設定した。いずれも幅2mである。掘削は、現代、近代の耕作土層を重機にて除去した後、遺物包含層は人力で行った。

調査記録は、A、Bトレントは航空測量を行い1/20の平面図を作成した。C、D、Eトレントについては全体を1/100、部分的に1/20で図化した。写真撮影は遺構、断面とも行った。

遺物の取り上げは、遺構出土のものは遺構ごとに番号を付けて行い、遺物包含層は層位ごと、地区ごとに行った。



第1図 三軒屋遺跡地区割表示図



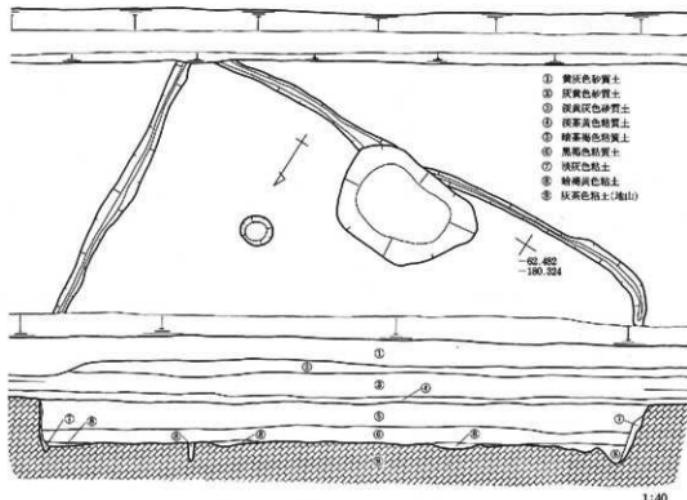
第2図 調査地位置図

2. Aトレンチの調査 基本的な層序は、東端から100m付近までは、上層から表土直下に1・2層（黄灰色系の粘質土）、第3層（灰褐色粘質土）、第4層（黄色粘土）の順に堆積する。第1層の出土遺物は、1～4は瓦器椀、5は瓦器皿、6は土師器椀、7は土師器壺、8は土師器高坏、9～11は弥生土器、第2層の出土遺物は12・13は須恵器の蓋と杯身、14・16は土師器壺、15は須恵質土器の練鉢、17は土師器皿、18・19は瓦器椀である。遺構は、第3層と第4層をベースにしている。100m付近で1m程度の落差の崖になっている。崖下の層序は、第1層が130m付近までつづく以外は全て河川堆積層である。第3・4層および河川堆積層からは遺物は確認できなかつた。遺構は東側において土坑、溝等を検出したが、非常に出土遺物が少ない。おそらく中世以降であろう。

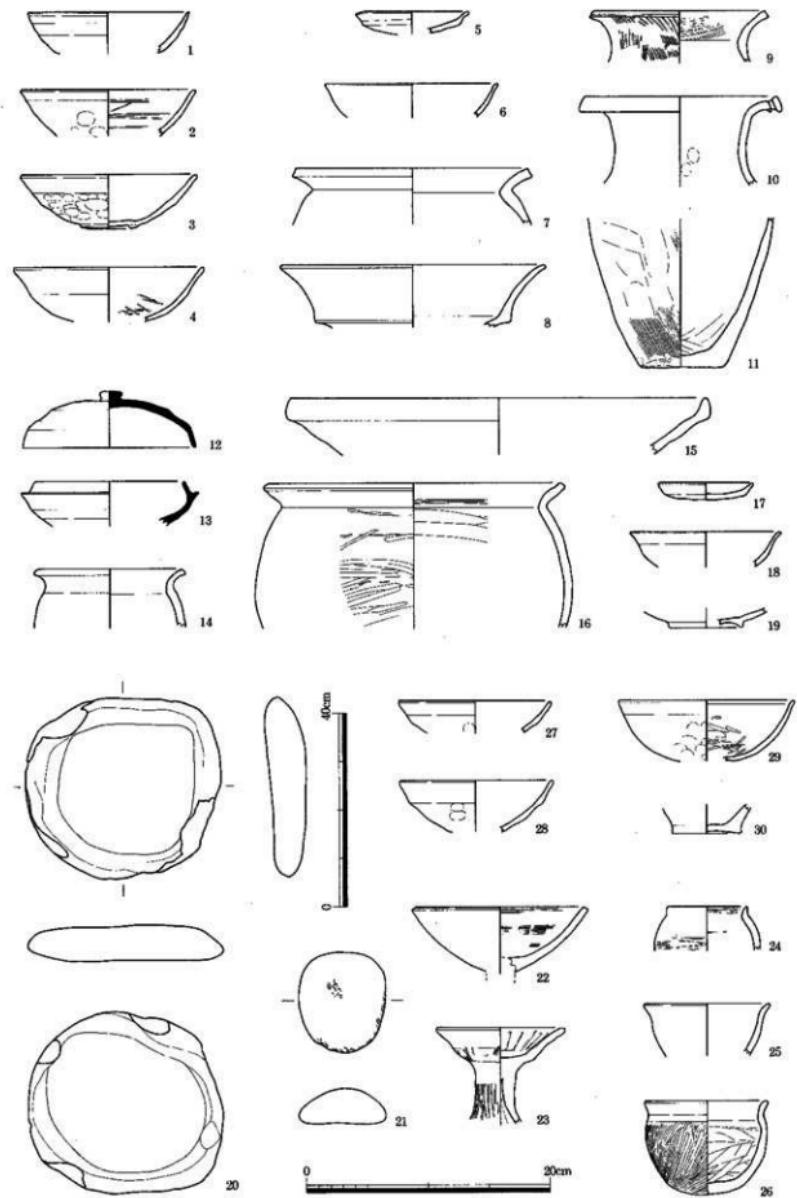
3. Bトレンチの調査 基本的な層序は、Aトレンチの第2層の直下に茶灰色粘質土（厚さ10～15cm・遺物包含層）が見られる以外はAトレンチと同様である。

主要な遺構として、東端から90m付近で古墳時代の方形プラン（一辺4.5m）の竪穴住居を検出した。南辺の中央に接して梢円形の土坑があり、埋土（茶褐色粘質土）から20石皿、21摺石、26壺が出土した。住居内の遺物は、22、23高坏、24、25壺が出土した。

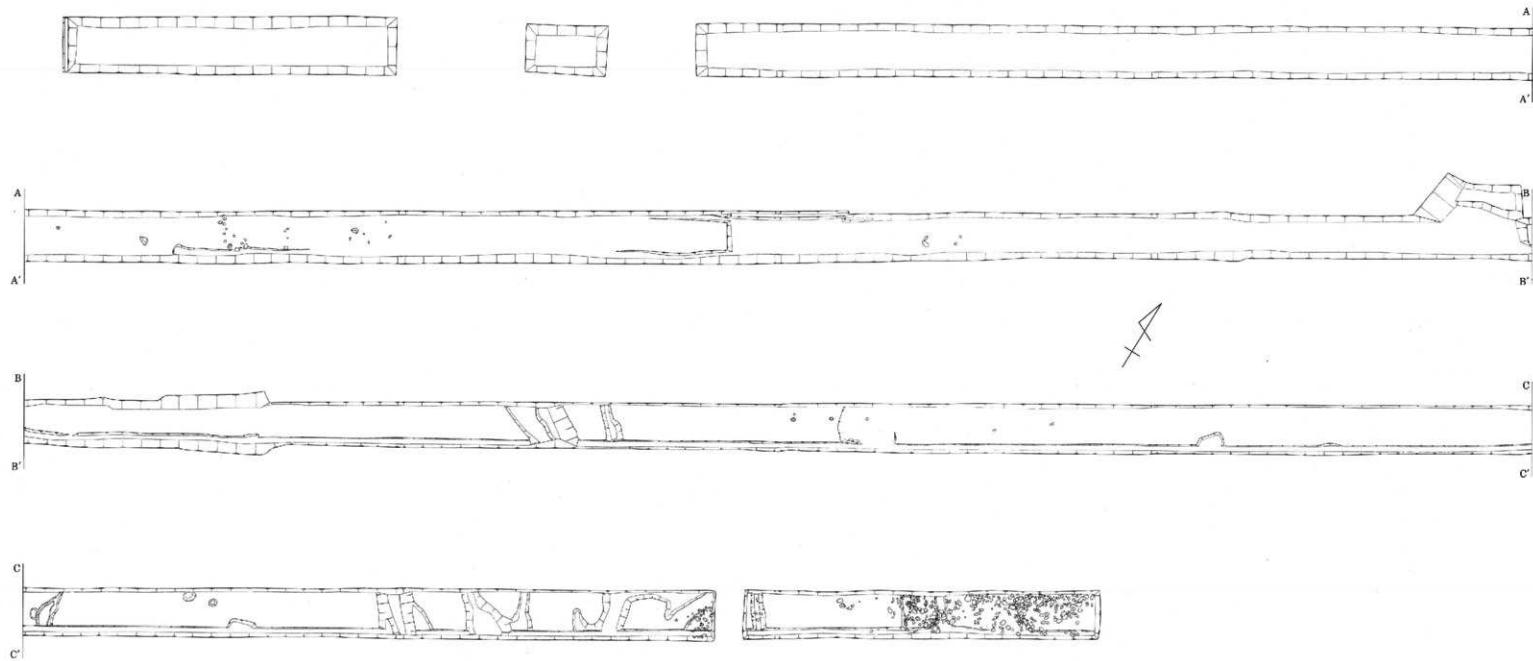
遺物包含層出土遺物は、1層から27～29は瓦器椀、30は弥生土器が、茶灰色粘質土から31～33は須恵器蓋、34～36は須恵器杯、37～39は須恵器壺、40～44、46～48は土師器高坏、45は弥生土器壺、49～55は土師器壺、56・57、66、67は土師器壺、58～60は瓦器椀、62は瓦器皿、61は黒色土器、63・64は土師器皿、65は土師器の鉢である。弥生時代後期から中世までの遺物が混在して出土している。



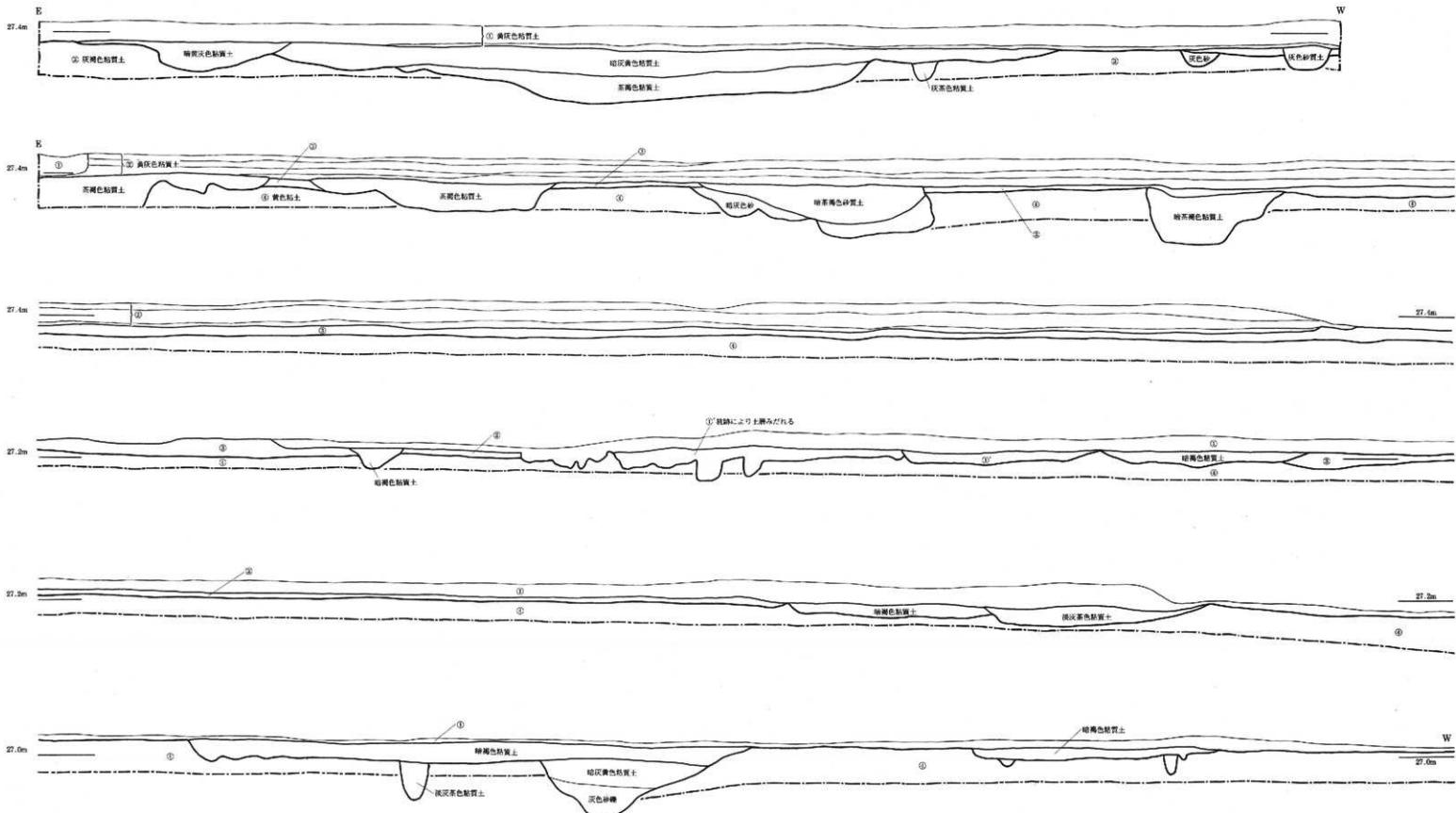
第3図 竪穴住居平面・断面図



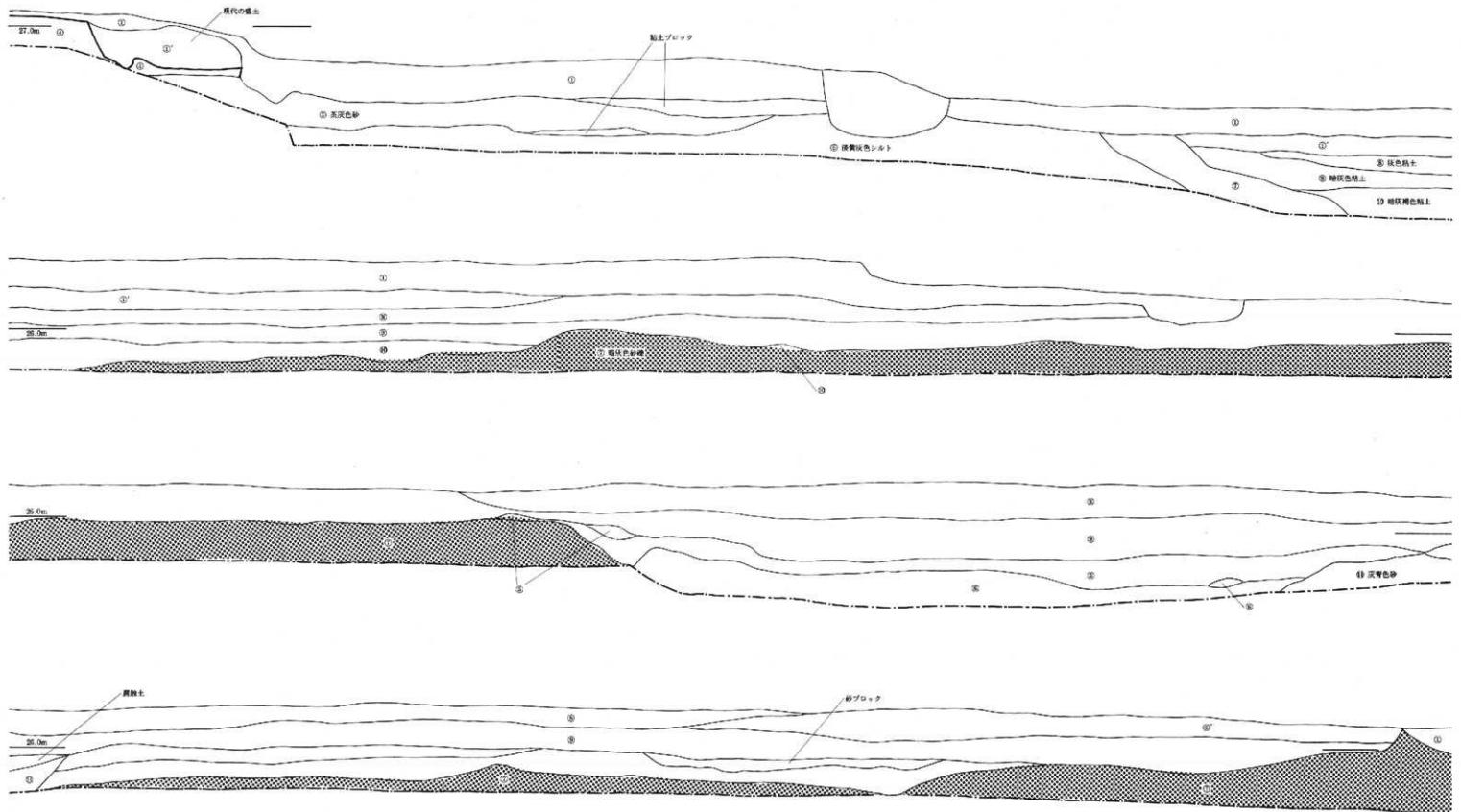
第4図 出土遺物図1



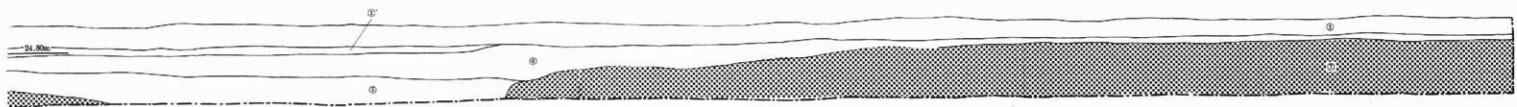
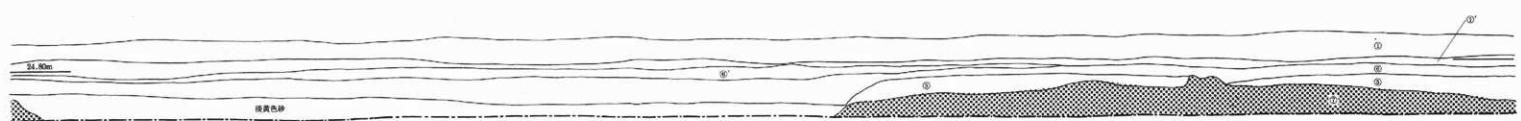
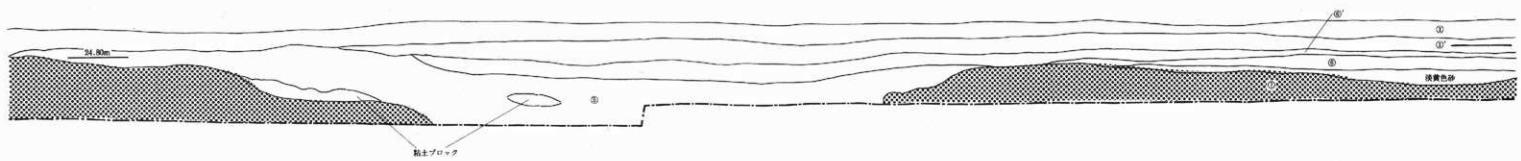
第5図 Aトレンチ平面図



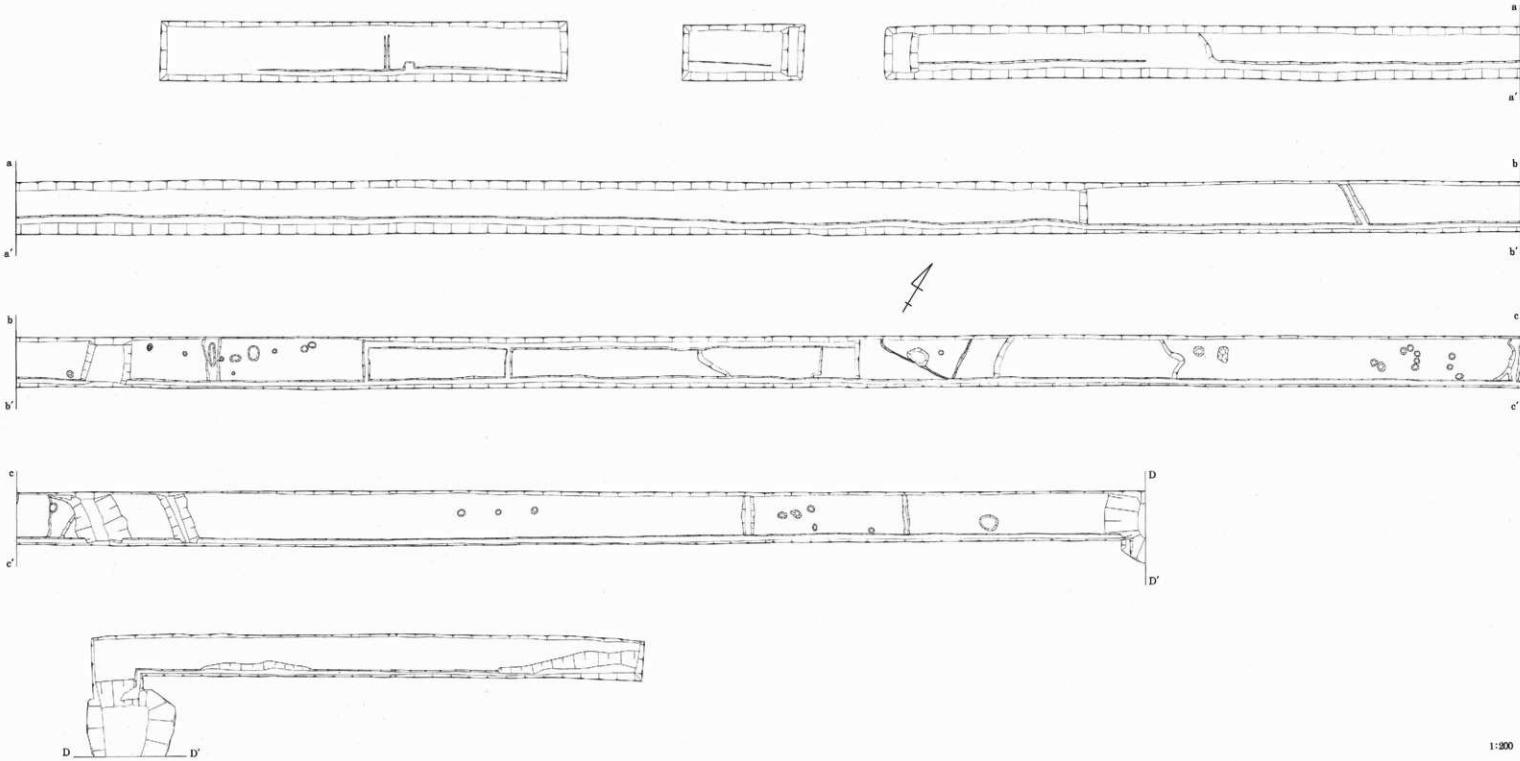
第6図 Aトレーン断面図1 (1/50)



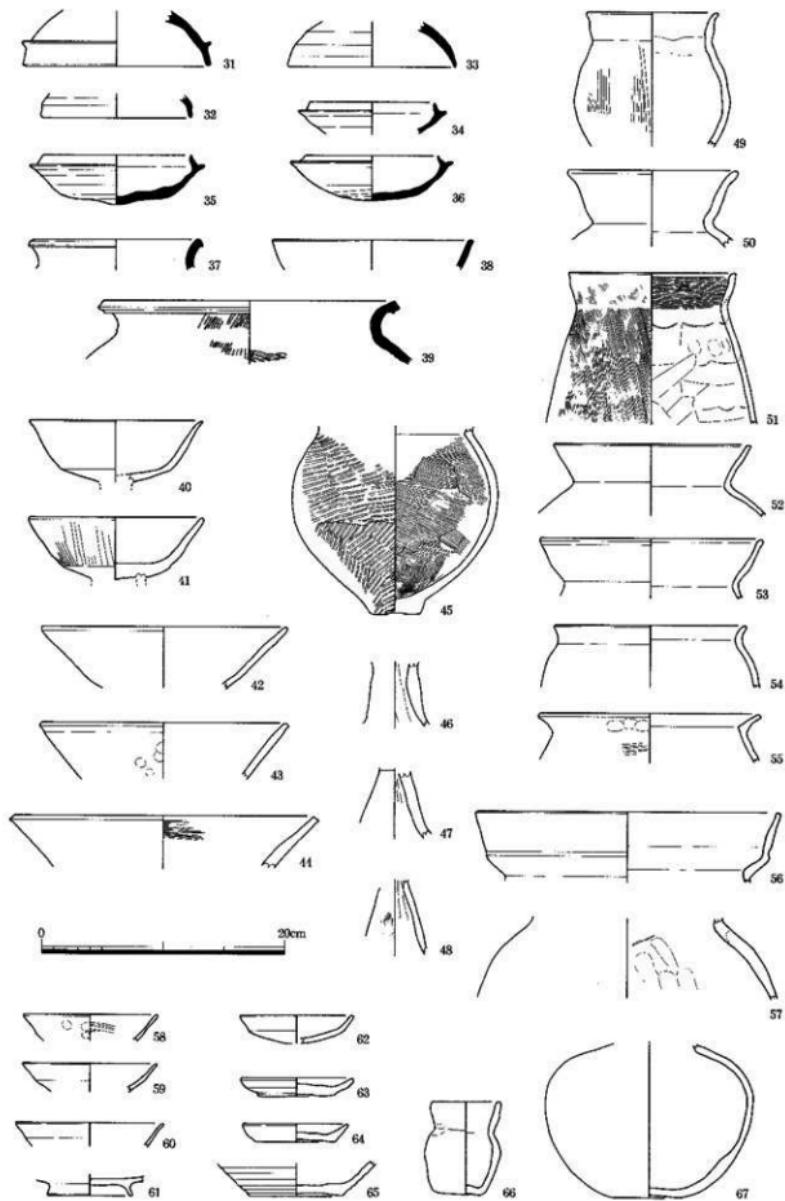
第7図 Aトレーニング断面図2 (1/50)



第8図 Aトレンチ断面図3 (1/50)



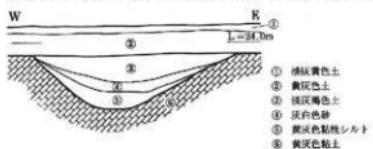
第9図 B トレンチ平面図



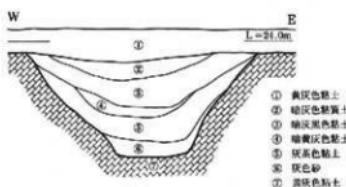
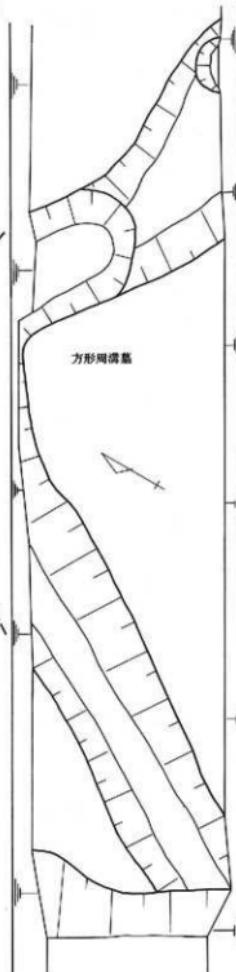
第10図 出土遺物図 2

4. Cトレンチの調査 基本的な層序は、表土直下に1層と2層が水平に堆積する。ただし東端から50m付近までは、1層直下に砂礫層と粘土層が互層がみられ埋積谷と考えられる。GL-2.5mまで掘り下げたが、湧水が激しく、非常に不安定な状態である。遺物は出土していない。

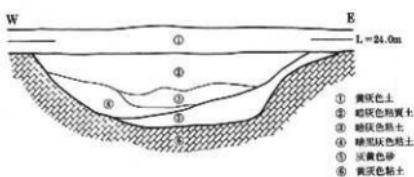
主要な遺構としては、方形周溝墓を検出した。方形周溝墓は、溝は幅1.2~1.5m、深さ20cm、埋土は暗茶灰色粘質土である。遺物は、溝の底付近から68~75弥生土器壺が出土した。溝が直角に曲がること、溝の底付近から弥生時代中期の土器が集中して出土したことから方形周溝墓と考えたが、後世の開墾で削られたためか主体部は確認できなかった。



第12図 溝1断面図 (1/20)

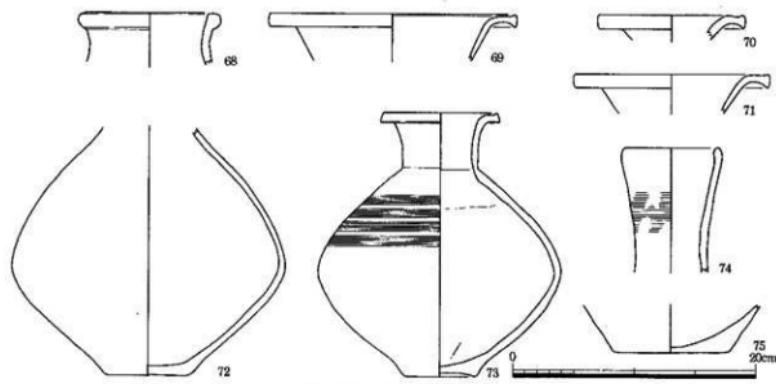


第13図 溝2断面図 (1/20)

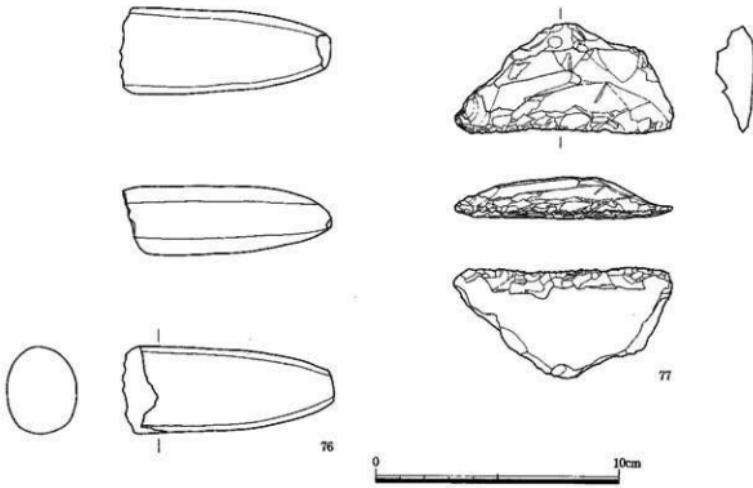


第14図 溝3断面図 (1/20)

第11図 方形周溝墓平面図 (1/50)



第15図 出土遺物図3



第16図 出土遺物図4

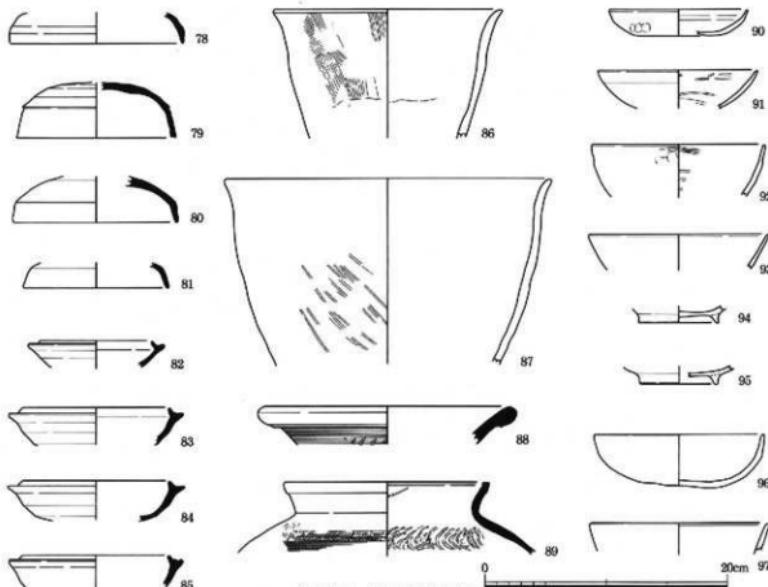
方形周溝墓の西側に方形周溝墓を切る南北方向の溝1がある。76縁泥片岩製の石斧が1点出土した。その他、溝2、3からも少量の弥生土器が出土している。

5. Dトレーニングの調査 基本的な層序は、Bトレーニングと同様である。遺構は、3層をベースにした土坑、溝を検出したが、出土遺物が少なく正確な時期は不明である。

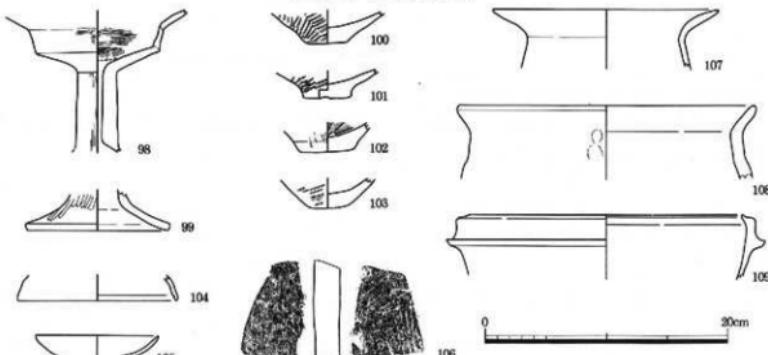
包含層出土の遺物を見ると1層から78、80、81は須恵器杯蓋、82～85は須恵器杯、88は須恵器甕、90～93は瓦器碗、77サヌカイト製不定形刃器、茶灰色粘質土から79は須恵器杯蓋、89は須恵器甕、86、87は瓶、94、95は瓦器碗、96は土師器碗、97は土師器甕がある。

6. Eトレーニチの調査 調査対象地の西部に唯一櫻井川に平行した方向に設置したトレーニチである。北端のCトレーニチと接する部分から南へ10mは、Cトレーニチと同様の層位で表土直下に黄灰色粘質土、茶褐色粘質土、灰褐色粘質土の順に堆積する。以南の層位は、表土直下から河川堆積層である。

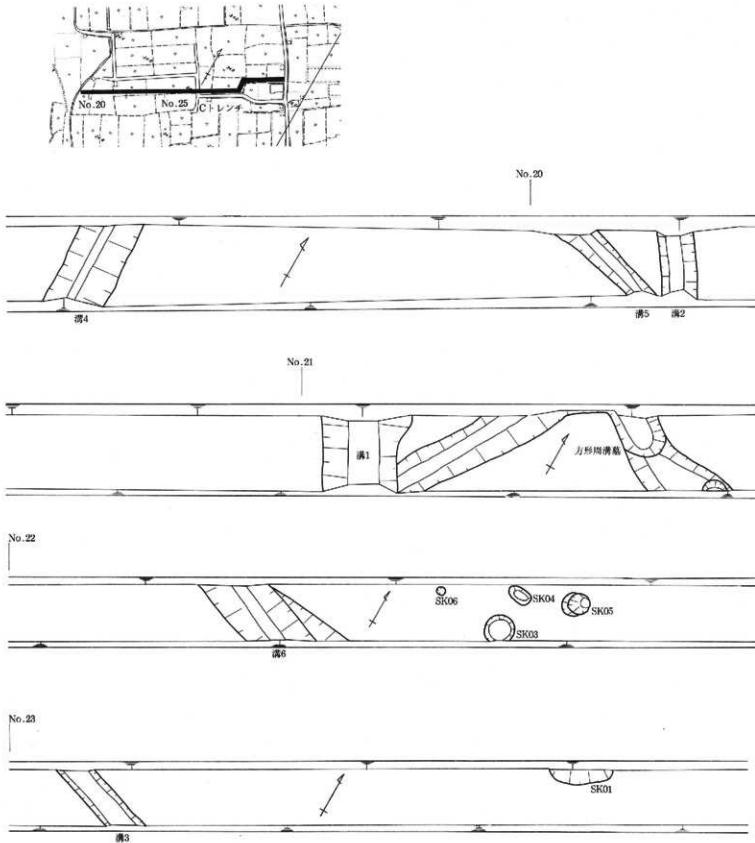
遺物は、茶褐色粘質土から出土した。98・99は弥生土器高坏、100～103は弥生土器甕である。104は須恵器杯蓋、105は瓦器椀、106は平瓦、107・108は土師器甕、109は土師器羽釜である。



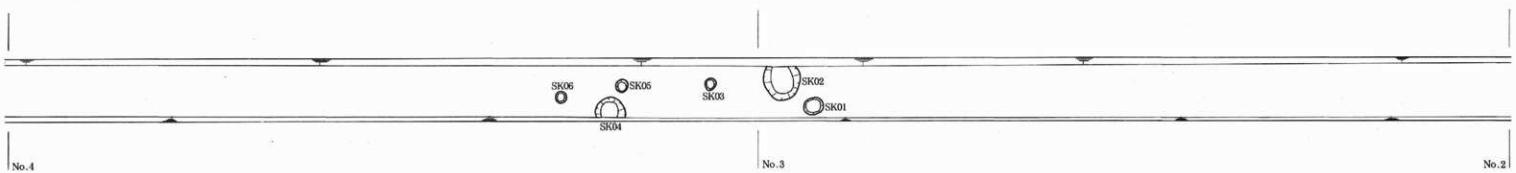
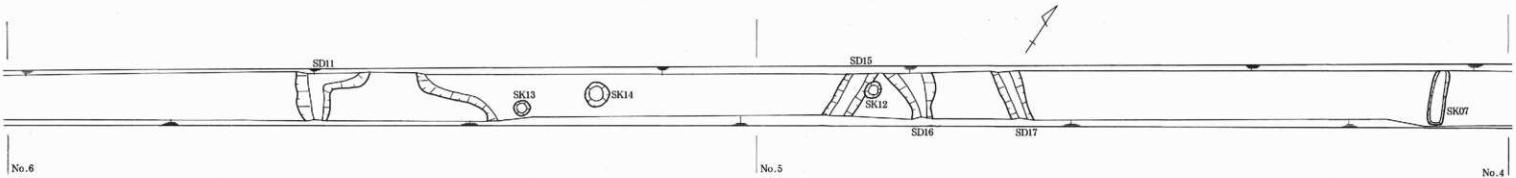
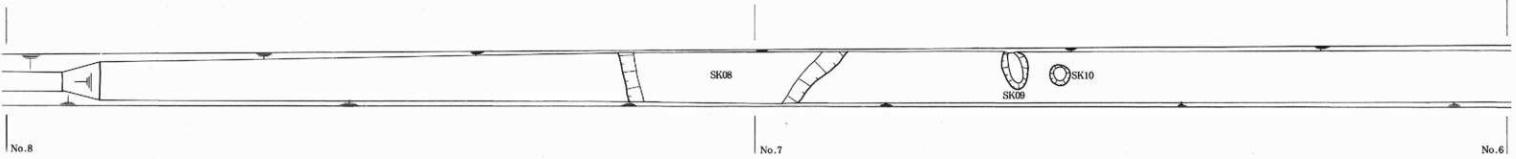
第17図 出土遺物図 5



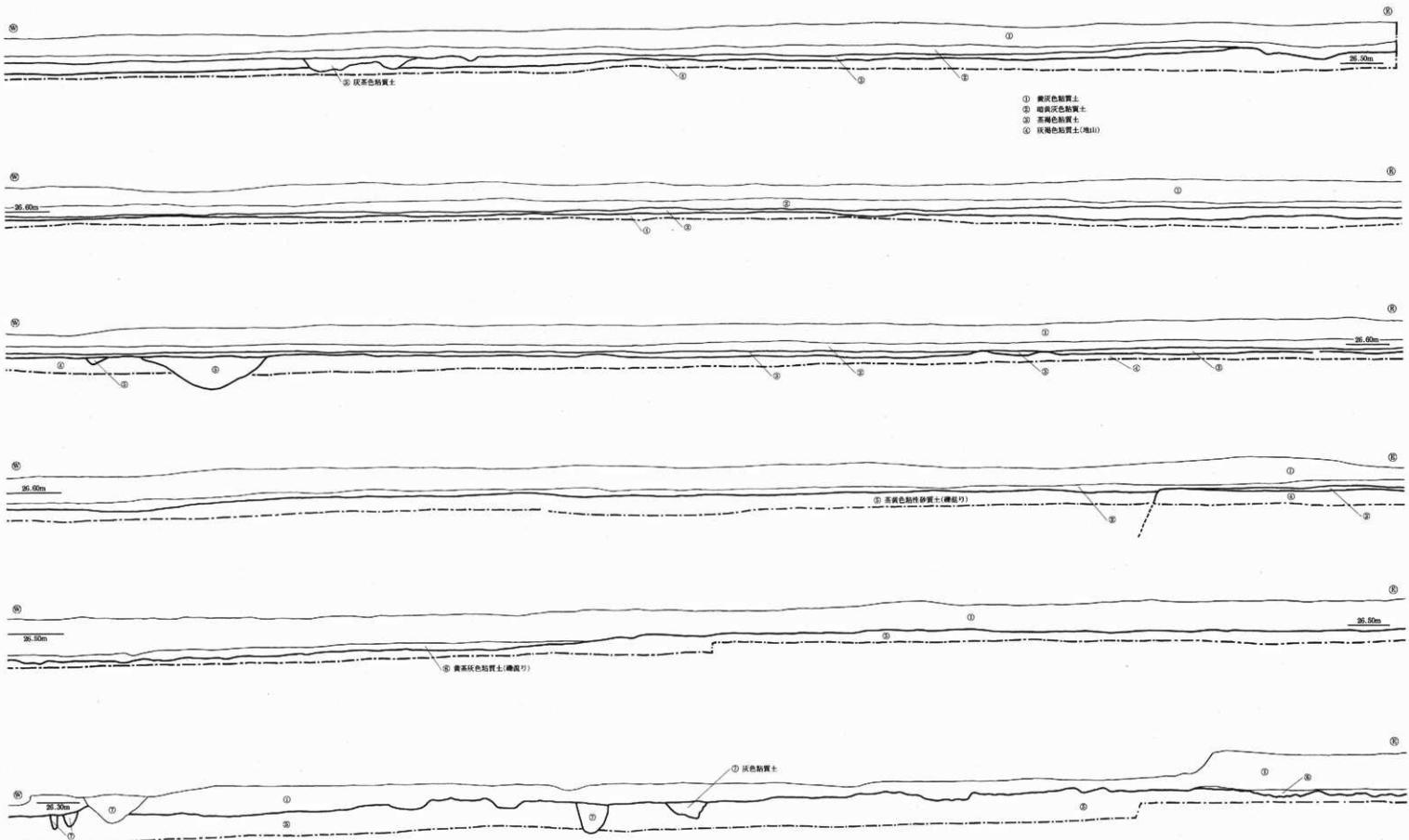
第18図 出土遺物図 6



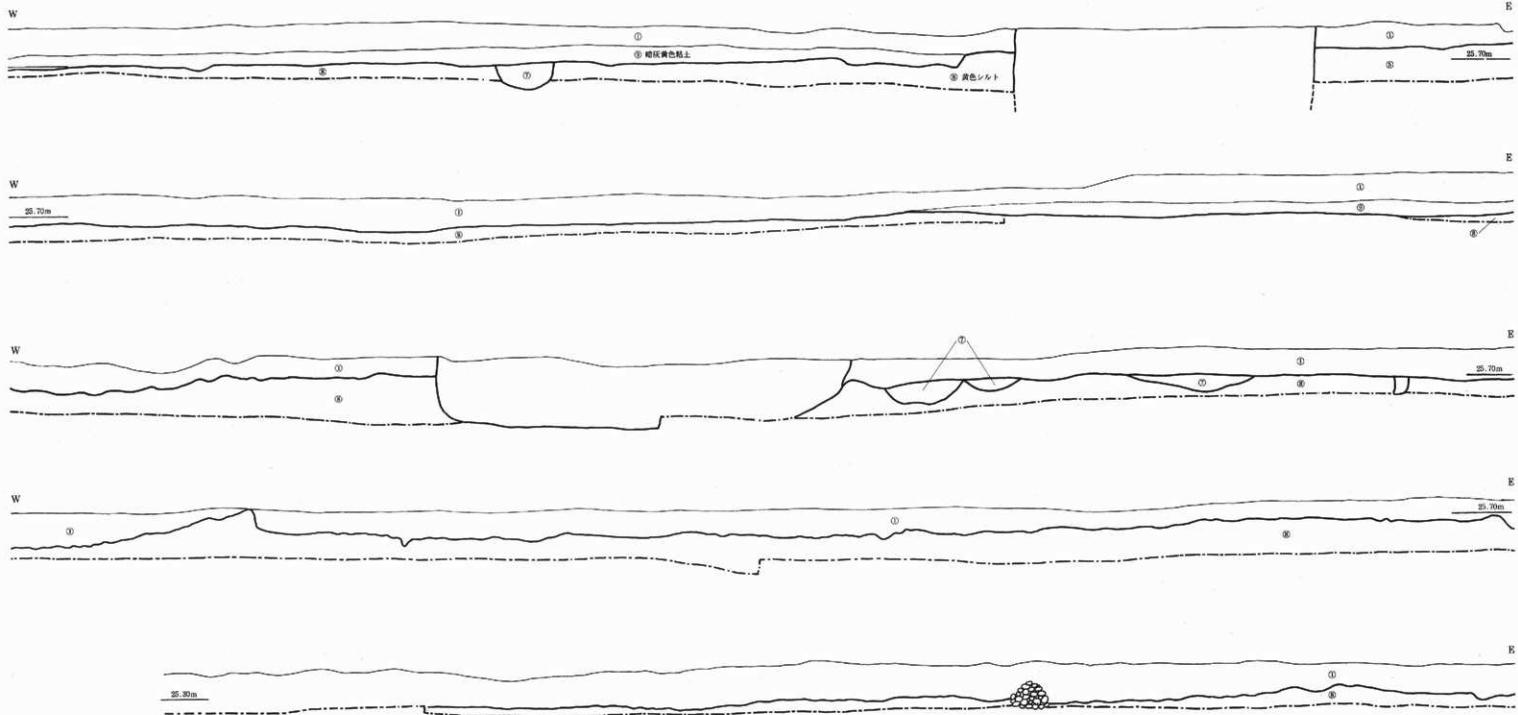
第19図 Cトレンチ平面図 (1/100)



第20図 D トレンチ平面図 (1/100)



第21図 D トレンチ断面図 1 (1/50)



第22図 D トレンチ断面図 2 (1/50)

III.まとめ

今回の調査成果と既往の調査から三軒屋遺跡の歴史的概観を時代ごとに述べることにする。

三軒屋遺跡の縄文時代は、後期に始まる。遺跡の西端部に地形的にみて周囲の水田よりの一段高い部分がある。現在も民家が密集している。地形分類では櫻井川で形成された自然堤防とされている。この付近に、縄文時代後期の遺構、遺物が集中している。縄文時代後期の段階において低地の中では最も安定していたのであろう。

弥生時代は、今回の調査においてもDトレンチで弥生時代中期の方形周溝墓を検出した。方形周溝墓は、昨年度の調査で検出した円形の竪穴住居の約60m北方に当たる。近接した検出されたこれらの遺構は、この周辺に弥生時代中期段階において住居、墓、おそらく水田をそなえた一群が存在したことが想定できる。三軒屋遺跡内では、弥生時代の集落においてこのようなグループがいくつ点在して認められるようである。近年の調査で確認されたもの一例あげると、JR長津駅の南西約100mの地点で泉佐野市教育委員会が1996年に市立幼稚園建設とともになって約2,200m²を調査した。弥生時代中期の円形竪穴住居4棟のほか水田遺構も確認している。

今回の調査の遺物の出土状況をみると、弥生時代中期の土器は方形周溝墓の溝内から出土した一群とその周辺とAトレンチ（9～11）の東方に多いようである。弥生時代後期の土器は、BトレンチとEトレンチの北部にみられる。

古墳時代になるとBトレンチで検出した古墳時代後期の竪穴住居がある。遺物は、竪穴住居内から出土した一群の土器やDトレンチで出土した瓶（86・87）やBトレンチの須恵器の高坏の蓋や土師器の高坏（8、40～44、46～48）、甕（52、53）壺（56）は5世紀後半に属するものと思われる。三軒屋遺跡では縄文土器の集中する遺跡西端の自然堤防上でこの時期の須恵器がまとまって出土している。このほか須恵器の杯身、蓋をみると6世紀前半（79）から末葉（34～35、82～85）まで認められる。

奈良時代に属するものは今回の調査では認められない。

平安時代の遺物としては、Bトレンチ出土の黒色土器碗の底部（61）、土師器皿（63、64）、鉢（65）がある。土師器3点の底部外面に「糸切り」痕を残している。

中世の遺物としては、瓦器碗がいずれのトレンチからも出土している。13世紀から14世紀代までみられる。15世紀以降に下る遺物は出土していない。この時期に水田域として新たに開発されたのであろう。おそらく現在みられるような田園風景ができるあがったものと考えられる。

調査の最終段階でAトレンチとBトレンチの東端で下層調査を実施した。その結果、黄色粘土層の下層に河川堆積層を確認した。したがってこの地点より西の櫻井川まで広がる平坦面は、河岸段丘面であることがわかった。縄文時代後期の遺構・遺物が自然堤防上の高まりに集中することは、河岸段丘面の形成過程であり、付近一帯は不安定な状態であったことがうかがえる。弥生時代中期になると、遺構が確認できることからこの時期には安定した河岸段丘面が形成されていたのであろう。今後調査例が増加し、櫻井川流域の微地形の変化をとらえることで、遺跡の変遷過程をより細かく知ることができるであろう。

報告書抄録

ふりがな	さんげんやいせきはっくつちょうさがいよう						
書名	三軒屋遺跡発掘調査概要・II						
副書名	農用地総合整備事業「下村地区」に伴う発掘調査						
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	橋本高明						
編集機関	大阪府教育委員会 文化財保護課						
所在地	〒540-8571 大阪市中央区大手前2丁目 ☎06(6941)0351						
発行年月日	西暦 1999年2月26日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村・遺跡番号	北緯 °°'	東経 °°'	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
さんげんやいせき 三軒屋遺跡	いみねのし 泉佐野市 上之郷	27213	34° 22' 25"	135° 19' 13"	1998年5月25日 ～ 1999年2月26日	3,500m ²	農用地総 合整備事 業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
三軒屋遺跡	集落遺跡	弥生時代	方形周溝墓、溝	弥生土器			

図版



南から



北から



西から



東から

図版二 A トレンチ断面



北から





西から



東から

図版四
B トレンチ竪穴住居



図版五 Cトレンチ方形周溝墓



西から



出土状況

図版六
D・Eトレンチ



東から



北から



22



23



25



24



26



20 · 21



68



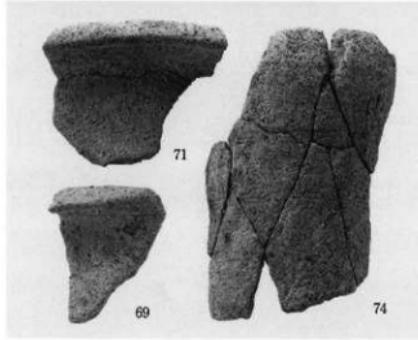
72



73



75



71

69

74



|



|



77



78

